

横浜市感染症発生動向調査報告(令和3年1月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が高い値が続いています。
- インフルエンザは例年より報告数が少ないです。

◇ 全数把握の対象

〈1月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
E型肝炎	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	梅毒	5件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症: O91が1件、O血清群不明が1件(ともに無症状病原体保有者)の報告がありました。感染経路等不明です。
- E型肝炎: 4件(うち無症状病原体保有者1件)の報告がありました。感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件あり、うち2件が性的接触による感染が推定されています。
- ウイルス性肝炎: B型の報告が1件ありました。性的接触による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群2件、B群3件、G群1件の報告がありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者が2件、AIDSが3件の報告がありました。いずれも男性で、性的接触(同性間4件、性別不詳1件)による感染が推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 40代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満の報告が2件(ワクチン接種歴4回あり)、80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 水痘(入院例に限る): 30歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 梅毒: 無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒 I 期3件の報告がありました。いずれも男性で、うち4件が異性間性的接触による感染が推定されています。

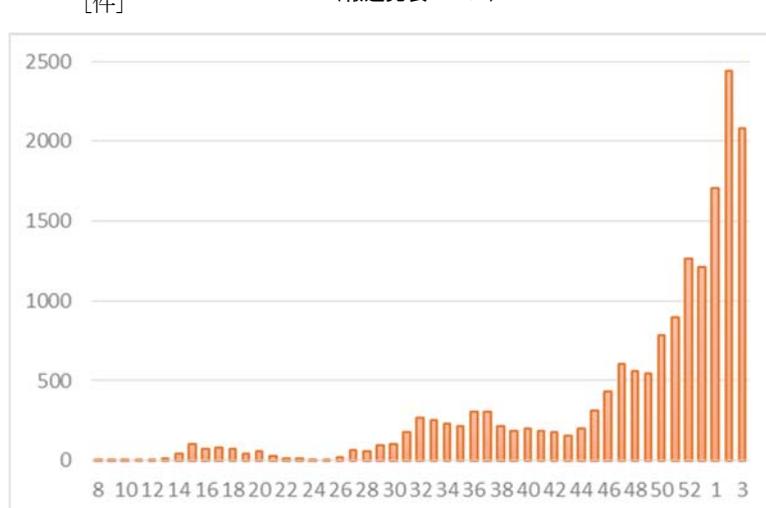
◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

第52週～第3週に横浜市から報道発表のありました症例は8704件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数
(報道発表ベース)

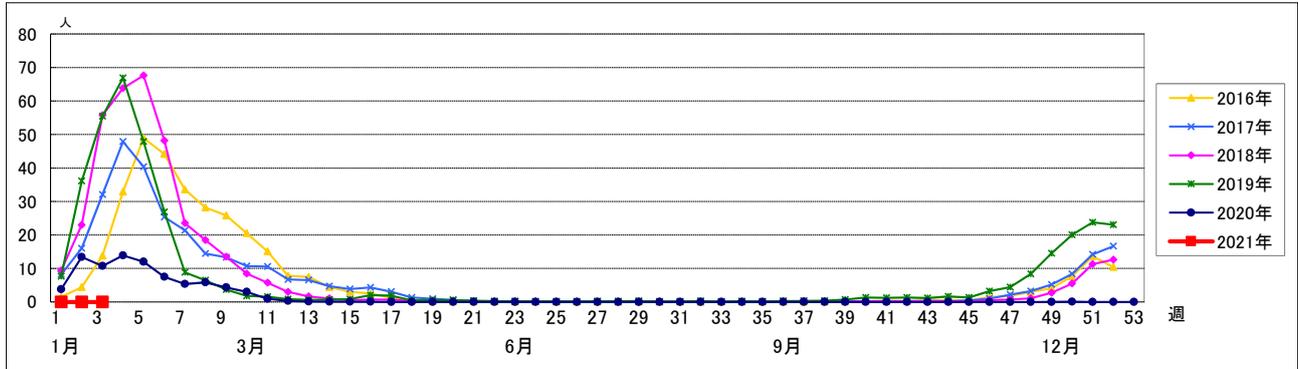


[週]

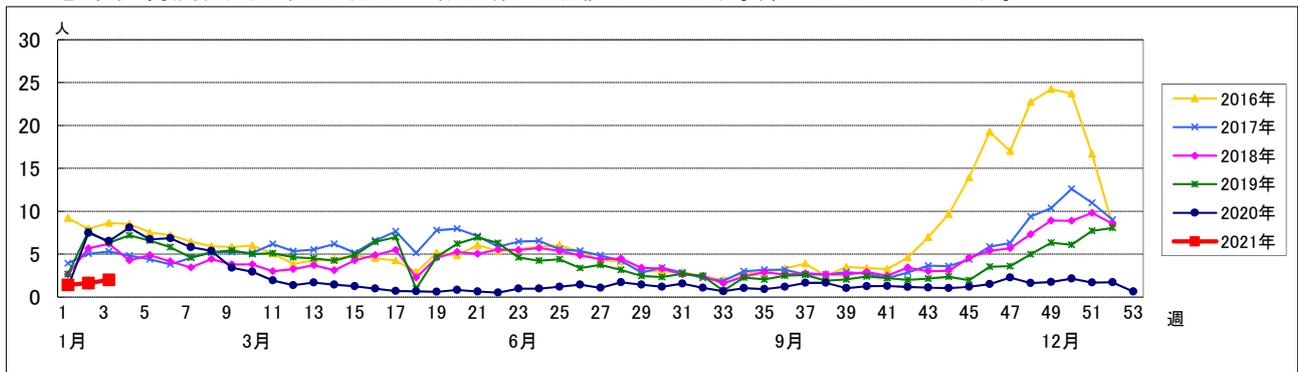
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第52週	12月21日～12月27日
第53週	12月28日～1月3日
第1週	1月4日～1月10日
第2週	1月11日～1月17日
第3週	1月18日～1月24日

1 インフルエンザ: 昨シーズンは2019年第40週で流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週には流行注意報発令されましたが、今シーズンは例年より低めの報告数で推移しており、第3週は0.00です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第3週は1.99です。



3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:35件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:9件	淋菌感染症	男性:16件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第52週	第53週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月21日から1月24日に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点23件、内科定点2件、基幹定点5件、定点外医療機関からは2件でした。

2月5日現在、表に示したウイルス分離1株と遺伝子5件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果1月期(2020年第52週～2021年第3週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	その他
	アデノ 1 型	1 -	
ヘルペス 1 型			- 1
ライノ	- 3	- 1	
合計	1 3	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

1月期(2020年第52週～2021年第3週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、ブドウ球菌1件、サルモネラ属菌1件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性肺炎球菌2件、侵襲性インフルエンザ菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からブロードレンジPCR(細菌に共通な16SリボソームRNA(16S rRNA)遺伝子の増幅を試み、増幅が見られた場合は、その遺伝子配列を解析することで菌種を同定する方法)2件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第52週～2021年第3週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
基幹定点		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Serratia marcescens</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 T4型 (1)	
		ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Saintpaul (1)	
医療機関		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1)	
	非定点	劇症型溶血性レンサ球菌	2	B群溶血性レンサ球菌 III型 (1)、 B群溶血性レンサ球菌 II型 (1)	
		侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 15型 (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> UT (1)	
		侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (1)	
保健所		腸管出血性大腸菌	1	O91 : H- VT1 VT2 (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	血液	ブロードレンジPCR(16S rRNA)	2	陰性 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】